

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

評価対象年度 平成 19 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	角館のお祭り保存会補助金				
担 当 課 係 名	文化財 課	文化財 係	作成者	伊藤 薫	
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち			総合計画の ページ 100
	基本計画	芸術文化活動の振興と文化財の保護			
	主要施策	文化財の保護と後継者の育成			
予 算 費 目	一般 会計	10 款 教育費	5 項 社会教育費	4 目 文化財保護費	
事 業 期 間	平成 年度 ~ 平成 年度	新規／継続の区分			
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☒ 補助金 ☐ 内部管理				
根 拠 法 令 等					
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運 営 方 法	☐ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☒ 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市民のため、「角館祭りのやま行事」を
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	重要無形民俗文化財に指定されている「角館祭りのやま行事」を末永く、後生に正しい形で伝えていく。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	「お囃子コンクール」「おやま囃子コンクール」の開催。全国山・鉦・屋台保存連合会の活動に参加。

【事務事業の推移】

(単位：千円)

		項 目	単位	18年度実績	19年度実績	年度実績
効果	活動指標	おやま囃子発表会出場団体	団体	14	17	
	成果指標	おやま囃子発表会観客動員数	人	500	700	
投下コスト	項 目		総事業費	18年度決算額	19年度決算額	年度決算額
	事業費（人件費を除く）(A)			500	500	
	財源内訳	国 庫 支 出 金				
		県 支 出 金				
		地 方 債				
		そ の 他				
		一 般 財 源		500	500	
	人 件 費 (B)		—	1,963	2,018	
		職 員 数	—	0.3	0.3	
		職 員 平 均 人 件 費	—	7,853	8,071	
		(A) + (B) 投下コスト	—	2,463	2,518	
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	175,929	148,118	
			—			
	市民1人当たりのコスト(円)		—	77	80	

【事務事業の今までの成果】

重要無形無形文化財の指定時、受け皿としての保存団体としてスタートした角館のお祭り保存会である。17年を経て、薬師堂・神明社・囃子・踊り・曳山・張番・山組方・人形師等々、お祭りに関係する団体16、個人31人の大きな組織に成長し、お祭りを広く市内外に宣伝し、正しく次代に伝え、永く保存する活動を行っている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	全国山・鉾・屋台保存連合会の加盟団体も年々増加している。秋田市の「土崎港曳山まつり」も平成10年に加盟し、平成22年には総会が開催される。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	旧来から近隣の人々も、お祭りについて、その役割を担うという形態であり、非常に関心が高い。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性		判 定 に 至 っ た 理 由
A	A	現状のまま継続（実施）	お祭り「角館祭りのやま行事」を永く保存するため、更なる保存会員の拡大、事業の展開が必要であり、継続していく必要がある。
	B	見直しの上で継続（実施）	
	C	大幅な見直しの上で継続（実施）	
	D	休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
A	国指定の無形民俗文化財である「角館祭りのやま行事」の保存団体として、重要な役割を担っており、引き続き事業の推進が必要と考える。

一次評価診断図

